

2022 年 9 月 29 日

博報堂教育財団 第15回、16回「日本研究フェロシップ」

成果報告書

I. 研究成果概要

氏名（フリガナ）	BAZANTAY Jean（バザンテ・ジャン）
在住国名	フランス
所属・役職	フランス国立東洋言語文化学院（Inalco） 准教授
招聘回：招聘研究予定期間 （招聘研究期間）	第15回：2021年3月1日～2022年8月31日 (2021年5月6日～2022年8月31日)
受入機関	早稲田大学 大学院日本語教育研究科
招聘研究テーマ	日本語教育（アーギュメンテーション能力と形式名詞）
研究目的	アーギュメンタティブ機能を持つ形式名詞を明らかにし、日本語教育においてアーギュメンテーション能力を育成する方法を検討する。
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか（具体的に）</p> <p>現時点で、日本に入国してから3ヶ月あまり経ったが、その間、以下の範囲の研究を進めてきた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究の概観（早稲田大学図書館） 2. 理論的枠組みと方法論の設定 <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育におけるアーギュメンタティブスキル養成のための基礎研究 研究対象として形式名詞を選別、会話データ収集の方法および分析の方法の設定 3. データの収集と分析 <ul style="list-style-type: none"> 国立国語研究所が最近公開した「日本語日常会話コーパス」 	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか（具体的に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ フランスで手に入らない、貴重な文献の読書は、学術枠組みを設定し、方法論をまとめるのに大いに参考になった。例えば牧野（2008）『「議論」のデザイン：メッセージとメディアをつなぐカリキュラム』では、日本におけるアーギュメンテーションの研究と実践を知ることができた。また、山岡が『発話機 	

能論』(2008)で提唱したアプローチを本研究のデータ分析に応用した。

- 国立国語研究所が最近公開した「日本語日常会話コーパス」を知り、それを本研究のデータ収集に生かした。データの処理の仕方も習って、今後の研究にもこのコーパスを使いたいと思う。
- 公共の場のポスター、標識など書き言葉の興味深い用例も集めることができた。このような社会での実例は説得力を持つので、分析対象とする他に、授業の教材のイラストなどにも使いたい。
- 本研究を通して、いくつかの複雑な学術概念を理解することができた。例えば、「説明」と「アーギュメンテーション」の関係、そしていわゆる「説明のモダリティ」と「言語行為としての説明」の違いなど。
- この研究過程において、日本語教育に向けたアーギュメンテーションの定義と意義を確認することができた。
- 本研究と直接関係がないですが、小林先生のゼミ参加を通して、私が担当する日本語教育のゼミで新たに使いたいテーマなどいろいろなアイデアを得た。

3. 研究成果

○論文

・貴財団に提出する論文を執筆。また、フランス語で本研究を発展させた論文を、准教授から教授資格(Habilitation à diriger des recherches 研究指導資格)審査研究に提出する研究業績に入れる予定である。教授資格審査後、何らかの形で公表したい。(フランスでは准教授から教授になる場合に資格が必要となる。)

○口頭発表

・フランス日本語教師会(AEJF)の2023年度シンポジウムでこの研究の成果を紹介したいと考えている。

○その他の活動

・近年中に、具体的な場面における形式名詞の用法を紹介する教材を作成したいと考えている。

4. 今後の活動予定

帰国してからも本研究をもとに、日本語教育におけるアーギュメンテーション能力の育成に関する研究を続けていく。その際、形式名詞以外の言語形式にも研究対象を広げたいと思っている。そして、これまでのように自分の研究(理論)成果を、教材作りなどの形で学習者と共有したいと考えている。